

セルフモニタリング報告書（令和2年度分）

令和3年4月30日

施設名 苫小牧市ときわスケートセンター

指定管理者 北海道ビル総合管理株式会社

所管課名 スポーツ都市推進課

モニタリング項目	指定管理者 コメント	自己評価
前年度末(3月度)のコロナ禍による臨時休館により開館日数(306日)は、前年度に対し40日増となりました。		
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	適切に施設の管理運営を試みたもののコロナ禍の影響により計画通りの実績を残すことが出来ませんでした。	A (B) · C · D · E
利用者増減内訳では、大会参加者+見学者(944人+256人=1,200人)は、▲959人+▲178人=▲1,137人	コロナ禍の影響はあったものの利用者数は30,427人と前年度比499人の微減で維持することが出来ました。利用率は46.2%と前年度比3.8%の減少となりました。貸切り枠の減少分を一般滑走で補う試みも効果は限定的となりました。	A (B) · C · D · E
自主事業は計画どおり行われたか。	コロナ禍の影響によりカーリング体験は4回実施と前年度を大幅に下回ることになったものの目的外使用のタイヤテストは前年度の8回を上回る10回実施し、計365名の来館者をお迎えしました。	A (B) · C · D · E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	災害時対応の手引の策定に伴う協定書を苫小牧市と取り交わし、「一時避難場所」として施設を開放し、市民の皆様へ安心、安全を提供しています。また、会議室の開放を行い、市民からの要望に対応しています。	(A) · B · C · D · E
一方、自主事業の中核を目指す「カーリング体験」については、今年度(4件、延べ人員193人)は、コロナ禍		
の影響が甚大で、道内外(企業・学校	老朽化による設備改善の要望はあるもののアンケート調査では満足度96%の評価を頂きました。今後も来館者へのこまめな配慮を怠らず、業務に専念します。	(A) · B · C · D · E
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	アンケートBOXを設置し、ご要望等来館者のお声を把握しています。	A (B) · C · D · E
作業頻度・時間の減少、並びにリンク照明使用時間の減少等により、これに係る電気使用量(535,927kwh)	可能な限り早急に対応しました。	(A) · B · C · D · E
▲37.4%の削減となりました。		
灯油(6,362.0ℓ)は、すべて暖房用に使用されており、対前年度+331.1ℓ+5.5%増は、控室の結露対策(雨漏	平日の一般滑走時は入館者ゼロの時間帯に消灯して節電を図る等、こまめに気を配り、経費節減を図りました。エコキュートの使用に関してもデマンド管理の徹底を行い、必要最小限の運転を心掛けました。	(A) · B · C · D · E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また経費が最小となるような取組はされているか。	適切な水準で行われています。	(A) · B · C · D · E
収入増加のための取組はされているか。	コロナ禍の影響によりカーリング体験等の営業活動は出来なかったものの、タイヤテストを計10回実施し、前年度比2回の増加を確保しました。	A (B) · C · D · E

4 適正な管理運営		
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適正な人員配置をしています。	A (B) C・D・E
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	下記の研修を実施しました。 ・自衛消防訓練 ・AED研修 ・保護具装着訓練 ・接遇マナー ・安全、コンプライアンス講話	(A) B・C・D・E
(全30,427人)は、対前年度 ▲499人 ▲1.6%の微減に留まりました。	条例に基づいて適正に処理しています。	(A) B・C・D・E
した。貸切利用者(27,987人)は、+520人 +1.9%、一般滑走者(1,240人)は、+119人 +10.6%の微増となりま	個人情報保護条例に基づいた管理を実施しています。	A (B) C・D・E
利用料収入(全10,962,400円)につきましても、前年度に対し▲1,876,050円 ▲14.6%の減収となりました。	適正に処理しています。	(A) B・C・D・E
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	適正に処理しています。	(A) B・C・D・E
一方、自主事業の中核を目指す「カーリング体験」については、今年度(4件、延べ人員193人)は、コロナ禍	適正に処理しています。	(A) B・C・D・E
安全対策(事故防止等)は十分だったか。	一般滑走時の事故防止を念頭に手袋・帽子着用の徹底、リンク内の監視体制の強化、定期的な館内アナウンス放送による注意喚起を実践し、安全対策の徹底を行っています。	(A) B・C・D・E
作業頻度・時間の減少、並びにリンク照明使用時間の減少等により、これに係る電気使用量(535,927kwh)	法に基づいた管理を実施しています。	(A) B・C・D・E
▲37.4%の削減となりました。		
灯油(6,362.0ℓ)は、すべて暖房用に使用されており、対前年度+331.1ℓ +5.5%増は、控室の結露対策(雨漏	ハローワークからの紹介等で地元出身者中心に雇用し、備品購入、修繕においても地元業者へ要請するよう配慮しています。	(A) B・C・D・E

- A : 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B : 目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C : 目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D : 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適切な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E : 目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

自己評価 ★ ★ ★ ☆ ☆

(最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。)

指定管理者の自己評価(全体を通して)

前年度末(3月度)のコロナ禍による臨時休館により開館日数(306日)は、前年度に対し40日増となりました。

コロナ禍影響が続く厳しい状況ではありましたが、開館日数が対前年度40日増ということもあって、利用者数(全30,427人)は、対前年度 ▲499人 ▲1.6%の微減に留まりました。

利用者増減内訳では、大会参加者+見学者(944人+256人=1,200人)は、▲959人+▲178人=▲1,137人 ▲48.7%、また、大会試合数(37試合)も▲34試合 ▲47.9%と前年度実績に対しほぼ半減の厳しい結果となりました。貸切利用者(27,987人)は、+520人 +1.9%、一般滑走者(1,240人)は、+119人 +10.6%の微増となりました。

利用料収入(全10,962,400円)につきましても、前年度に対し▲1,876,050円 ▲14.6%の減収となりました。一般滑走(170,100円)は、対前年度+23,600円+16.1%の微増でしたが、コロナ禍影響により、大会利用収入及び貸切利用収入合計では、対前年度▲1,876,050円 ▲14.6%の減収となりました。

自主事業の内、目的外使用の「スタッドレスタイヤ試乗会」については、10日×8H/日を実施し、前年度実績を確保することが出来ました。

一方、自主事業の中核を目指す「カーリング体験」については、今年度(4件、延べ人員193人)は、コロナ禍の影響が甚大で、道内外(企業・学校)とも申し込みが激減し、対前年度 件数▲25件 延べ人員▲980人と大幅に減じる結果となりました。

[使用エネルギー等の削減について]

前年度末から続くコロナ禍影響による施設利用率の低下(大会利用並びに貸切利用の低下)に伴う製氷作業頻度・時間の減少、並びにリンク照明使用時間の減少等により、これに係る電気使用量(535,927kwh)が、対前年実績▲102,884kwh ▲16.1%の削減となりました。

同じく、製氷作業頻度・時間の減少により、これに係る水道水の使用量(2,356t)が、対前年実績▲1,408t ▲37.4%の削減となりました。

灯油(6,362.0ℓ)は、すべて暖房用に使用されており、対前年度+331.1ℓ +5.5%増は、控室の結露対策(雨漏れ等)にストーブでの使用量が多くなったことによるものと思われます。

セルフモニタリング報告書（令和2年度分）

令和3年4月30日

施設名 苫小牧市新ときわスケートセンター

指定管理者名 北海道ビル総合管理株式会社

所管課名 スポーツ都市推進課

モニタリング項目	指定管理者コメント	自己評価
1 事業計画の達成度		
事業計画の内容に従い、適切に施設の管理運営が行われたか。	適切に施設の管理運営を試みたもののコロナ禍の影響により計画通りの実績を残すことが出来ませんでした。	A・ B ・C・D・E
施設利用者数の増加、利用率の上昇、利用者利便性の向上などの目標は達成されたか。	コロナ禍の影響により利用者数は44,098人と前年度比13,811人の減少となり、利用率も同様に75.3%と前年度比2.7%の減少となりました。貸切り枠の減少分を一般滑走で補う試みも効果は限定的となりました。	A・ B ・C・D・E
自主事業は計画どおり行われたか。	カジュアルホッケーにおいては前年とほぼ同様の27回実施し、延べ702名が参加し、前年度比337名の大幅な増加となり、カテゴリーの設定が功を奏した結果と認識しています。アイスホッケー教室(チビっ子)においても前年同様18回実施し、254名が参加し、前年度比109名の大幅な増加となりました。	A ・B・C・D・E
地域、関係機関、ボランティア等との協働・連携に向けた取組が行われているか。	地元の幼稚園・小学校からの要請に応じて防具(ヘルメット・肘当て・膝当て)の貸出しを行い、スケート競技の普及の一翼を担っています。また、会議室の開放を積極的に行って、市民からの要望に対応しています。	A ・B・C・D・E
2 利用者の満足度		
利用者の満足が得られているか。	アンケート調査では満足度71%の評価。設備及びリンクコンディションの適切な管理は勿論のこと、利用者へのこまめな配慮や利便性の向上が必要と痛感しています。	A・ B ・C・D・E
利用者の意見・要望の把握は適切に行われているか。	アンケートBOXを設置し、ご要望等来館者のお声を把握しています。	A・ B ・C・D・E
利用者の意見・要望・苦情への対応は十分行われたか。	可能な限り早急に対応しました。	A ・B・C・D・E
3 管理運営の効率性		
経費の低減が図られているか。またその取組は十分か。	デマンド管理の強化で電気基本料金の節約を図り、平日の一般滑走時の入館者ゼロの時間帯にも消灯する等経費節減を心掛けています。	A ・B・C・D・E
一部業務の再委託に要している経費は、適切な水準か。また経費が最小となるような取組はされているか。	適切な水準で行われています。	A ・B・C・D・E
収入増加のための取組はされているか。	コロナ禍による自粛ムードが続く中、例年行っている、アイスホッケー合宿やカーリング体験等の営業活動が出来ず、実績を残すことが出来ませんでした。	A・B・ C ・D・E

4 適正な管理運営		
人員配置及び職員の管理体制は適正か。	適正な人員配置をしています。	A (B) C・D・E
職員の能力向上に向けた取組は行われたか(研修等)。	下記の研修を実施しました。 ・自衛消防訓練 ・AED研修 ・保護具装着訓練 ・接遇マナー講話 ・安全、コンプライアンス講話	(A) B・C・D・E
施設の平等な利用等について、適切に処理にされているか(使用料の減免、還付含む)。	条例に基づいて適正に処理しています。	(A) B・C・D・E
利用者の個人情報等について適正に管理が行われていたか。	個人情報保護条例に基づいた管理を実施しています。	A (B) C・D・E
収支の状況に不適切な点はないか。会計処理は適正か。	適正に処理しています。	(A) B・C・D・E
施設・設備等の法定点検及び保守は、適正に行われているか。	適正に実施しています。	(A) B・C・D・E
書類・備品等の管理は適正に行われているか。	適正に実施しています。	(A) B・C・D・E
安全対策(事故防止等)は十分だったか。	一般滑走時の事故防止を念頭に手袋・帽子着用の徹底、リンク内の監視体制の強化、定期的な館内アナウンス放送による注意喚起を実践し、安全対策の徹底を行っています。	(A) B・C・D・E
法令・協定書等を遵守し、適正管理が行われているか。	法に基づいた管理を実施しています。	(A) B・C・D・E
5 地域貢献		
雇用・資材調達・再委託等、地域貢献に努めているか。	ハローワークからの紹介等で地元出身者中心に雇用し、備品購入、修繕においても地元業者へ要請するよう配慮しています。	(A) B・C・D・E

- A : 目標、事業計画を上回る取組がされており、管理運営状況は極めて良好である。
- B : 目標、事業計画どおり又はそれ以上の取組がされており、管理運営状況は良好である。
- C : 概ね目標、事業計画どおり行われており、管理運営も適正で、特段問題は見られない。
- D : 目標、事業計画において一部未達成があるなど計画内容を下回っており、又は管理運営において一部不適切な部分があるなど、改善が必要と認められる点がある。
- E : 目標、事業計画の内容を大幅に下回っており、かなりの部分において改善が必要である。

自己評価 ★ ★ ★ ☆ ☆

(最大評価を★5つとし、5段階評価で星を塗りつぶしてください。)

指定管理者の自己評価(全体を通して)

前年度末から続くコロナ禍による臨時休館等の影響により、開館日数(291日)は、前年度に対し▲10日 ▲3.3%の減となりました。

利用者数(全44,098人)は、コロナ禍影響が続く厳しい状況により、対前年度▲13,811人 ▲23.8%の減となりました。

利用者数内訳では、一般滑走(8,390人)は、対前年度+900人 +12.0%の増となりましたが、その他、貸切利用者(27,341人)は、対前年度▲7,898人 ▲22.4%、大会参加者(4,259人)は、対前年度▲3,343人 ▲44.0%、見学者(4,108人)も対前年度▲3,470人 ▲45.8%といずれも減となりました。

利用料等収入(13,163,675円)は、対前年度▲2,673,375円 ▲16.9%の減収となりました。やはり、コロナ禍による影響が大きく、特に大会試合数(162試合)は、対前年度▲89試合 ▲35.5%減、また、これまで順調に伸びてきた大学・高校等の合宿(件数28件、利用時間42時間)についても、対前年度▲87件 ▲124時間 ▲75%との大幅に落ち込み、減収の大きな要因となりました。

[使用エネルギー等の削減について]

前年度末から続くコロナ禍影響による施設利用率の低下(大会利用並びに貸切利用の低下)に伴う製氷作業頻度・時間の減少、並びにリンク照明使用時間の減少により、これに係る電気使用量(543,953kwh)は、対前年度▲120,773kwh ▲18.2%の削減となりました。

同じく、製氷作業頻度・時間の減少により、これに係る水道水の使用量(3,571t)が、対前年度▲706t ▲16.5%の削減となりました。

また、同じく製氷作業頻度時間の減少に伴い、温水製造に用いるボイラーの灯油使用料(20,354.4ℓ)が、対前年度▲2,325.6ℓ ▲10.3%の削減となりました。